

よっては、泊まることじたいを目的にしてもいいくらい魅力的な場所もたくさんある。

[ハットのカテゴリー]

DOCのハットは、設備のていどによって4段階のカテゴリーに分けられている。カテゴリー1がもっとも充実していて、カテゴリー4はシェルターに毛が生えたような雨風しのげるだけ小屋。グレート・ウォークのハットは、ほとんどがカテゴリー1で快適な作りになっているが、バックカントリー・トラックではカテゴリー2か3が多い。宿泊料金は原則としてカテゴリーごと決められている。

[カテゴリー1]

ベッド、マットレス、炊事台・シンク・水道、テーブル、ベンチなどに加えて、調理用ガス・ストーブ、ヒーター、水洗トイレ(たいてい紙付き)、ランタンなどが整っている。グレート・ウォーク・ハットのほとんどはこれに属する。宿泊費はおおむね\$15から\$30くらいまでで、コースによって異なる。グレート・ウォーク・ハットの場合は、事前に専用のハット・パス Great Walk Hut Passを購入しておく必要がある。後に書くアニュアル・ハットパス Annual Hut Passやハット・チケットは使えない。夏のあいだはワーデンが常駐していて、無線を通して気象情報などが得られる。冬は無人になり、ガスも止められてカテゴリー3になることがおおい。グレート・ウォーク以外のカテゴリー1ハットは、北島のコロマンデル

Coromandel にひとつ、南島のマウント・クック周辺の高山帯にいくつかあるだけで、この本で取り上げるコースの中には出てこない。また、国営ながら、今述べているバックカントリーハット・システムに則らない独自のシステムで運営される小屋もある。3章で出てくる Mueller Hut がそれにあたる。

[カテゴリー2]

ベッド+マットレス、炊事台・シンク・水道、テーブル、ベンチ、トイレ、ヒーターからなる。ヒーターの燃料は薪が基本で、自分で拾ってくる場合もあるし貯蔵庫に貯めてあることもある。場所によっては石炭が用意されている。調理用のガス・ストーブはないので、自分で携帯コンロを用意していく。人気のあるコースはワーデンが常駐していることがあり、毎朝気象情報を得られる。宿泊費は1泊\$10。

[カテゴリー3]

もっともベーシックなハット。ベッド+マットレス、炊事台、水道、トイレ、薪のヒーターがある。ちょっとマイナーなトラックではこれが標準だ。規模的にごんまりとしているところが多いけど、不自由なく快適に泊まれる。1泊\$5。

[カテゴリー4]

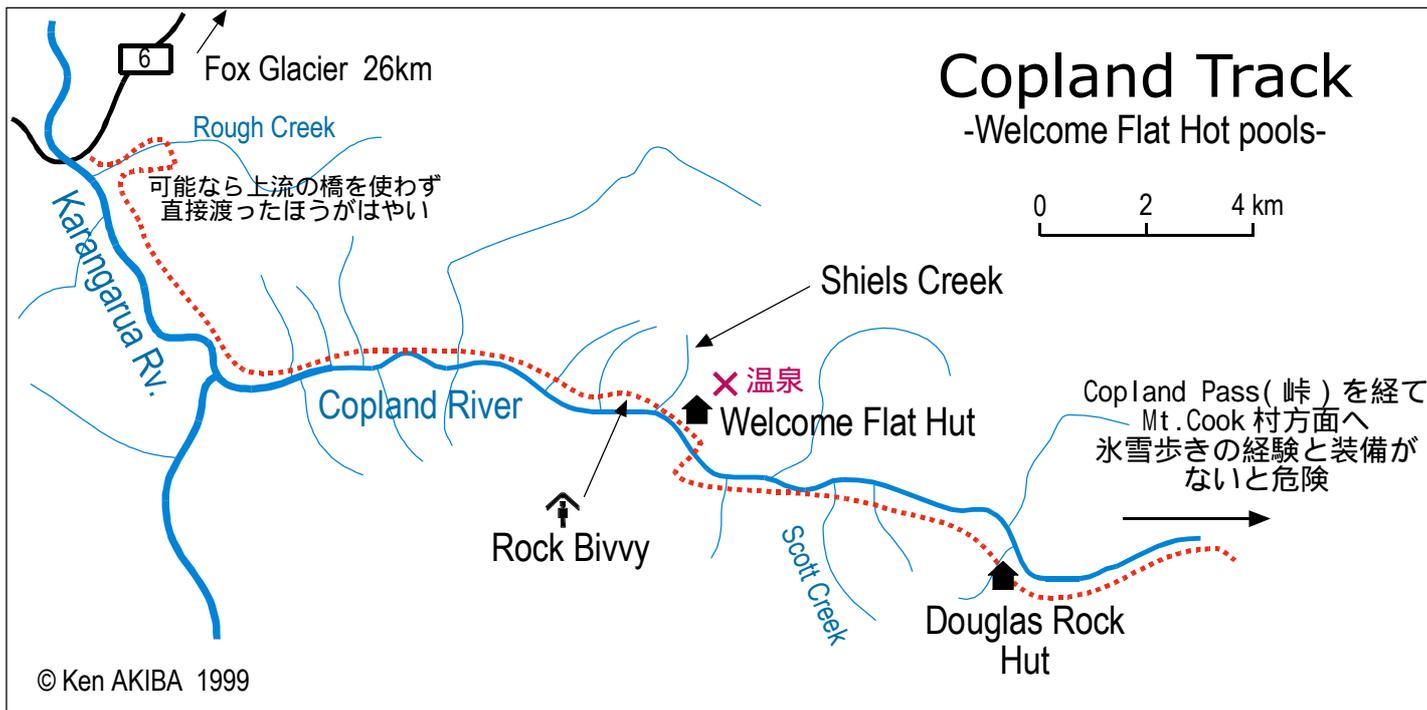
よっぽど辺鄙なところにはいかない。シェルターに毛が生えたようなもので、現役を引退した昔のハットであることが多い。ベッドが残っていることもあるけどマットレスは原則的にない。泊まるな

グレート・ウォークの宿泊料金一覧 (2000年2月現在)

Track	Summer Season		Premium Rates		Off Season	
	Huts	Campsites	Huts	Campsites	Dates	Huts Fee
Lake Waikaremoana	\$10.0	\$6.0	\$13.0	\$8.0	1 May-30 Sep	\$10/\$6
Tongariro Northern Circuit	\$12.0	\$6.0	\$15.0	\$8.0	1 Jun-22 Oct	\$8
Abel Tasman Coast	\$14.0	\$7.0	\$17.5	\$8.0	1 May-30 Sep	\$6
Heaphy	\$12.0	\$6.0	\$15.0	\$8.0	-	-
Routeburn	\$35.0	\$12.0	\$45.0	\$18.0	28 Apr-28 Oct	\$4
Milford	\$35.0	-	\$55.0	-	28 Apr-28 Oct	\$4
Kepler	\$15.0	\$6.0	\$20.0	\$8.0	28 Apr-28 Oct	\$4
Rakiura	\$8.0	\$6.0	\$10.0	\$8.0	-	-

* Premium Rates: 小屋でワーデンに料金を払う場合

* Abel Tasman Coast, Routeburn, Milford はサマーシーズン中には事前の予約が必要



は、すぐ横をながれるラフ・クリーク Rough Creekを30分ほどさかのぼって上流の橋を渡るように描かれている。しかし特別に水量が多くなければ、カーパークから川を直接対岸へ渡ったほうがはやい。ふだんなら膝下くらいの水量。オレンジ色の大きなマーカーのところから森の中へトラックが続いている。

そのあと森、草原、河原など景色を変えながらコップランド・リバー Copland River をさかのぼっていく。森の中には踏み分け道とマーカーがしっかりついているが、河原へでてしまうとほとんど目印がない。ふたたび森林帯へ入るポイントにはオレンジのマーカーやケルンが立っているが、注意しないと見落としてしまう。

コップランド・リバーに流れ込む支流をいくつか渡るが、ほとんどの沢は足を濡らさず飛び石伝いに渡れる。水量が多いときは少し上流にあるつり橋を利用する。ただウェルカム・フラット・ハットの30分くらい手前のShiels Creekには橋がない。(もしかしたらもう修復されているかもしれない) おおきな岩がゴロゴロしている急な谷川で雨で増水すると通行不能になる。クリークの10分くらい手前にシェルター (Rock Bivvy) があり、いざとなったら水が引くのを待つことができる。しかし雨をしのげるだけ岩屋なので、快適な宿泊は望めない。

ウェルカム・フラット・ハット Welcome Flat Hut の先はトラックの整備状況が極端に悪くなる。小さなアップダウンが増え、下草に覆われて歩きにくい。スコット・クリーク Scott Creekのように渡渉が必要な川もある。地図上の距離は短いが、ウェルカム・フラット・ハットまでの行程より苦労するかもしれない。

ダグラス・ロック・ハット Douglas Rock Hut の先はコップランド・パスの手前の谷のどん詰まり (標高約1400メートル付近) まで行くことができる。雪に覆われた斜面には雪崩の跡があったりして迫力のある景色を楽し



Architect Creekに架かるつり橋



ウェルカム・フラット
サザンアルプス直下でガスがかかりやすい。晴れていればこの先にアルプスの山々の勇姿が望める。